

カンガルーシップ活動 就労支援プロジェクト 実施報告書

報告日	平成29年3月2日
主管学校名	福井大学教育学部附属特別支援学校
PTA会長名	伊藤 敏行

実施概要	主管校	福井大学教育学部附属特別支援学校
	交流校	福井・坂井地区の福祉事業所
	実施活動名	① 事業所見学会 ② 進路に関する学習会
	実施日時	① 7月25日(月)、26日(火)、27日(水)、28日(木)、10月19日(水)、27日(木)、各日午前実施 ② 9月24日(土) 13:00~16:00
	実施場所	① 福井・坂井地区の福祉事業所12箇所 ② 福井大学教育学部附属特別支援学校 地域交流棟 2F多目的室
	実施目的	① 本校児童生徒の居住地の施設見学を行うことで、保護者や子どもたちが進路選択の幅を広げ、進路に関心を持つために実施。 ② 親亡き後の子どもたちの生活について、事業所から専門の方をお招きして、保護者が子どもたちの将来に必要な情報、準備していくべき情報を知り、その情報を共有するために実施。
	実施内容	① 本校生徒の就労先を中心に、福井地区、坂井地区の各事業所を見学し、職員の方から説明を聞いた後に、質問事項に応じてもらう。 ② 「親亡き後の生活」を学校卒業後10年、20年、30年で区切り、障害基礎年金取得、3つの暮らし(一人暮らし・GH・施設入所)、成年後見人制度、本人の看取りまでの情報を共有、イメージする。
	実施方法	① 夏休み中に福井地区2日間、坂井地区2日間、高等部の現場実習期間に2日間、計6日間の見学日を設定し、それぞれの見学日について参加希望をとって実施した。 ② 5名のパネラーを招いて、前半はパネルディスカッションおよび質疑応答、パネラーも交えてのグループディスカッションおよび質疑応答の形式で実施した。
参加人数	① 6回の見学会で 延べ人数 保護者45名 児童生徒42名 教員31名 計118名参加 ② 本校保護者23名、本校教員20名、他校の保護者・教員23名 計66名参加	

報告事項	内容	<p>① 事業所見学会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合福祉施設あけぼの園(生活介護事業) 仕事内容:木工関連商品作り、誕生日カード作りなど ・平谷こども発達クリニック(生活介護事業・放課後等デイサービス事業) 仕事内容:ペットボトルリサイクルなど ・NPO法人 くまっクラブふくい(生活介護事業・日中一時支援事業(休日)) 仕事内容:畑・さをり織り、紙漉きなど ・NPO法人 ピアファーム(就労継続支援B型) 仕事内容:農作業(梨、ぶどう、野菜栽培など)、作物販売など ・NPO法人福井女性フォーラム さくらハウス(就労継続支援B型・自立訓練事業) 仕事内容:丸岡産の着物の帯を使っのの小物作り、箱折り、和紙バッグ作りなど ・社会福祉法人六条厚生会 就労支援やわらぎ(就労移行支援事業・就労継続支援A型・就労継続支援B型) 仕事内容:病院・高齢者施設・デイサービスなどの食事の準備など ・NPO法人福井県セルフ振興センターセルフうらら(就労継続支援B型) 仕事内容:カフェリーズ接客業務 ・エイティーンズ加工株式会社丸岡工場(就労継続支援A型) 仕事内容:クリアファイル検品作業、自社製品など製品袋詰めなど ・NPO法人障害者自立援助センターはんだか就労支援事業所(就労移行支援事業・就労継続支援B型) 仕事内容:軽作業(箱おり、カーテン部品組み立てなど)、清掃作業、自主製品作り(かきもち、せんべいなど)、販売など ・社会福祉法人虹の会うめのき仕事内容:部品整理、製品組み立て作業 ・NPO法人スマイルネットワークさかいスマイル農園(就労継続支援B型) 仕事内容:農作物の生産、ピザ生産販売、製品組み立て等 ・(株) きらく(就労支援センター) 仕事内容:工芸品制作、軽作業
------	----	---

② 進路に関する学習会

◎ パネルディスカッション（全体会報告）

《卒業後 10 年：障害基礎年金取得》

医者の診断書と親が書く申立書が、1級になるか2級になるかの判断材料。特に医療にかかってない人は医療機関を選んでおくことが必要。行政の判断を仰ぐので、行動障害が強くて見守りが必要など、これまでの困り感をできるだけ詳しく書く。

《卒業後 20 年：財産管理など本人のことを決めていくのは？》

兄弟による親族後見、家庭裁判所など第3者後見がある。兄弟だと本人のことをよくわかっているが、搾取はあり得る。財産がたくさんあるときは第3者の方が安心。本人が元気なうちに意志決定してもらうと意思を尊重できる。

《卒業後 30 年：看取りについて》

高齢化、重度化、重症化の場合、施設入所では医療的ケアは受けられない。体も病気になる。特別養護老人ホームは知的障害の方の高齢化にも対応できる。65歳になったらみんな介護保険に移行というわけではない。入院する場合、グループホームで対応できる場合もある。

◎ グループディスカッション（グループ討議報告）

《一人暮らしについて》

卒業後に金銭管理など生活の自立教えてくれる社会資源はない。グループホームでも教えてもらえない。一人暮らしをする方は一般就労の人が多いたろうが、相談支援員が付かないので相談できる人がいない。

《グループホームについて》

グループホームにかかる費用は、年金+工賃で本人に10000円残るように設定している。利用者6人に対し支援員1名で設定している。

《施設入所について》

Mさんによると、卒業して10年で障害基礎年金65000円の中、施設にかかる費用の他に小遣い2万円ずつ積み立てて貯金100万円になった。本人の高齢化のために必要な貯金であるとのこと。

結果

① 見学日を増やすことで、今年度の現場実習先を全て見学先とすることができた。また、昨年度と比較しても、参加人員が3倍近く増加した。見学先を増やすことで、生活介護事業・放課後等デイサービス事業・就労移行支援事業・就労継続支援A型・就労継続支援B型等、様々な種類の事業所の見学が可能になった。

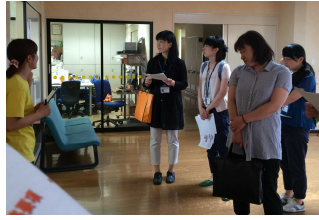
② 「一人暮らし」は非常にハードルが高く、家庭での様々な生活にまつわる取り組みが最も必要。できるかどうか分からないにしても、家庭で少しずつ取り組むことは、生きていく上で最も重要なこと。それはどこで暮らそうとも、自分のことを自分で行うという自信につながり、豊かさを生み出す。グループホームを目指す場合も、自分のことは自分で行うことを家庭や学校で促す一方で、地域生活の場で実際に身に付けていくことが大切になってくる。まずは保護者以外の人と関わって地域の中で生きていく力を付けてほしい。施設入所を希望しても、なかなか入所ができない現状もあるが、まさに最後の砦です。成年後見制度の理解がこれから必要になりますし、相談支援専門員へのアプローチも必要です。入所を選択するのであれば、早めの対応をしていく必要があります。

所感

① 夏休み4日間、現場実習期間2日間の事業所見学を終えて、どの事業所も利用者のステップアップを考えていること、地域社会と交流し、開いた事業所を目指しているということ。卒業してそこに就労したら終わりではなく、常に前進していく、挑戦していくという事業所の前向きな姿勢や取り組みが見られた。今回小学部の保護者の方の参加も見られ、来年度も事業所見学会を実施し、保護者の意識を更に高めていきたいと感じた。

② 一般に就労支援というと、どのような事業所を選べばよいかなどの話題に終始することが多い。しかし、今回のテーマは「親亡き後の生活」を学校卒業後10年、20年、30年で区切り、障害基礎年金取得、3つの暮らし（一人暮らし・グループホーム・施設入所）、成年後見人制度、本人の看取りまでの情報を共有、イメージする特別支援のこどもを持つ保護者にとっては、究極の企画であった。日頃、今在のことやほんの目先のことばかりを考えてしまいがちではあるが、10年後、20年後、30年後を見据えての今を考える必要があると感じた。

① 事業所見学会



あけぼの園



やわらぎ



セルプうらら



はんだか



平谷こども発達クリニック



やわらぎ



ピアファーム



さくらハウス



エイティーンズ加工株式会社



くまっクラブふくい



スマイル農園



きらく

添付書類

② 進路に関する学習会



会場入口



会場内案内



玄関受付



グループディスカッションの様子

カンガルーシップ活動
就労支援プロジェクト
参加感想

提出日	平成29年3月2日
学校名	福井大学教育学部附属特別支援学校
学年	中学部生徒 1. 2. 3年

①事業所見学会に参加して生徒感想

- ・「一生懸命働いていてカッコいい」
- ・「集中していてすごい」
- ・「こんなお仕事がしてみたいです」
- ・「いつもやっていることが仕事になるんだな」
- ・「あいさつをしっかりしないといけないことがわかった」
- ・「卒業した先輩たちにあえてうれしかった」

カンガルーシップ活動 就労支援プロジェクト 参加感想

提出日	平成29年3月2日
学校名	福井大学教育学部附属特別支援学校

① 事業所見学会に参加して保護者感想

- ・まだ先のことだと思っていたが、いろいろ話が聞けてよかった。これからどうしたらよいか考える上でとても勉強になった。
- ・同じ生活介護の事業所でも三者三様だが、どの施設も温かい雰囲気であった。今後の進路を決める上で参考になった。
- ・放課後デイサービスで利用しているところも、生活介護の様子はなかなか見学することがないので参加できてよかった。
- ・それぞれの事業所の特徴がわかり、自分の子が就労したらと考えながら見学した。進路選択の難しさを改めて感じたが、参加してよかったと思う。
- ・ピアファームのように農生産に携わる仕事は、大変だけどやりがいがあると思った。我が子が好むかはわからないが。
- ・年によって違う施設を見学できるので、毎年楽しみに参加している。多種多様なので見学するほど悩むが、たくさんの施設をみて実習場所を決めなければと思う。
- ・A型B型でもいろいろあると思った。A型では工賃があり1か月働くと給料をもらえるのは、休まず働くためのよい目標になると思った。
- ・利用者さんがしっかり仕事をしているなと思った。我が子には難しい仕事もあったが、卒業後に向けて実習や学校での生活を頑張ってもらいたいと思った。
- ・どの施設も分かりやすい説明で我が子連れればよかったと思う。
- ・「やわらぎ」は施設がきれいで立派。関連施設や病院の仕事で、種類も様々ありきちんと管理されていて「仕事」という感じ。
- ・「カフェリーズ」は素敵だが我が子に接客は無理かな。志比口の「セルプうらら」は温かい雰囲気の中利用者さんが集中して作業してよかった。工賃3万円・送迎無料・給食が魅力的。作業所がやや狭く立ったままなので、我が子が作業できるか心配。
- ・「エイティーンズ」も「はんだか」も利用者が笑顔で元気に働いていてよい印象。事業者が日程や仕事内容を分かりやすく示してよかった。
- ・A型は一般企業に近く緊張感があった。どの事業所も障害者の雇用創出に尽力していて感謝。
- ・地元の「移行・B型・A型」と見学でき勉強になった。(生徒)袋詰めの作業が難しそうだった。
- ・同じ事業所でもかわるので、数年ごとに見学の機会を持つべきだと思う。
- ・「はんだか」は利用者が落ち着いて座ってカーテンフックの作業をしていて、雑然としたイメージがなくなった。移行とB型があるが作業の違いが分かりづらかった。
- ・「エイティーンズ」は教育的人道的で熱意のあるA型だと思う。安心して生徒を託せる。(送迎がないので)自動車免許をとって通わせたい。
- ・実際に実習にいったらと生徒に合うかどうか分からないかも。
- ・事業所の作業内容や雰囲気を実際に見られる機会は貴重で、生徒の進路選択に役立つ。今年度は希望調査を行い選んだが、他の事業所の資料もあり参考になると思う。

② 進路に関する学習会に参加して保護者感想

- ・10年後、20年後を見据えて準備することをイメージできた。(多数)
- ・30歳40歳になったときどのように生活しているのかを考えさせられました。とにかく自分でできることを増やし、まず自立を目指したい。その中でもいろいろな支援について知り、受けることが大事だと思う。今後も老後をみすえいろいろ勉強していきたい。
- ・将来のことについて漠然と不安を抱いていましたが、少し安心できました。
- ・このテーマについて家族で相談して、本人に必要な力や家族ができることを理解していきたい。